

# 街路樹

## 学力向上に向けて ③

### 「授業設計を再確認.....まずは教材観！」

最近、単元設定の理由に児童生徒観を先に書いている授業案を目にすることがあります。授業を計画する時、学習指導要領に定める目標や内容を十分に把握し、「何のためにこの教材を使うのか。この教材では何を、どこまで教えるか。」という教材観を確実に踏まえ、単元全体を見通していくことが大切です。改めて単元設定の理由（教材観・児童生徒観・指導観）について確認してみましょう

- (1) 教材観  
学習指導内容の教材としての見方（単元の位置づけ）  
○ 社会的要求や発達段階からの見方  
○ 教科の基本概念や基礎的・基本的事項  
○ 基礎的・基本的事項から見た位置づけ……など
- (2) 児童生徒観  
教材に対する児童生徒の実態（児童生徒の単元内容についての見方や考え方）  
○ 児童生徒の興味・関心・態度の程度  
○ 児童生徒の本単元に対する認識の実態  
○ 本単元についての前提条件……など  
・既習や本単元に関する学習経験・生活体験
- (3) 指導観  
目標達成を図るための単元の展開方針  
（できれば単元の教材構造や関連事項、個に応じた学習計画や学習形態……など）  
まずは、「教材観」を明確にして充実した授業を展開しましょう。

## 教育相談係りのお知らせ

年齢や発達に不釣り合いな行動をしている子どもはいませんか？例えば、気が散りやすく、たびたび自分の荷物を紛失する。注意しても立ち歩き、常時落ち着きがない。ルールや順番を守れない。相手を意識して話すのが苦手など気になったら、ぜひご相談ください。

## 授業の改善 ④

### 子どもが学習に「やる気」をおこす10のタイプ （小学校高学年の例）

- 自覚型～もう大きくなったので
- 義務型～しなくてはならないから
- 欲求型～よい成績をとりたいたから
- 理解型～やればできるから
- 模倣型～みんなもやっているから
- 影響型～授業が楽しいから
- 代償型～欲しい物が買ってもらえるから
- 性格型～気になってしかたがないから
- 経験型～前にやったことがあるから
- 自然型～いつのまにか「やる気」になった  
子どもの「やる気」のきっかけは多様です。  
その子どもに応じた、きっかけづくりを工夫するのも授業改善に不可欠です。

### 《指導技術 ③》 子どもが学習に乗ってこない原因は？

- ① 教材研究の不足
- ② 子どもに対する認識の不足
- ③ 教師の児童生徒に接する態度
- ④ 子どもを引きつける技術の不足
- ⑤ 思考力を高める発問の仕方の不足
- ⑥ 子どもの学習以前の問題 etc

今回は、この中から⑥の問題に絞って考えて見ましょう。  
多くの子どもたち一人一人は、実に様々な心身の状態で学校に来ますし、授業に臨んでいます。また、教師側にも心にゆとりがあるかどうか大きな問題になります。

そこで、子ども達が学習に乗ってこない場合、思い切って「気分転換」の工夫を図ってみてはいかがでしょうか。

例えば、① 大きく深呼吸させたり、あくびをさせたり、② 座ったまま、上下屈伸運動をさせたり、③ 教師のリズムに合わせて手をたたかせ、気分転換を図ることも一方法です。

## 研修の感想紹介

### 学年主任研修

- 今、よく聞かれるコーチングの手法をとり入れてはというお話がとても印象に残りました。（小・W）
- めざす児童像を明確にもち、その具現化に向けて互いを理解し、互いのよさを生かし補い合う関係を作り合いながら、児童の指導・支援にあたっていかなければと感じました。（小・W）
- グループ協議の際に、同じ新任学年主任の考えやベテランの学年主任の先生の考えを聞いたのが参考になりました。（中・M）
- 学年主任としての役割をいろいろな角度からとらえて主任として、人間としてのあるべき姿をいろいろな資料から教えていただきました。（中・M）
- 学年の組織の一員として自分の持ち味を生かしながら他の教師との連携を図り、生徒のよさを伸ばせる教師を目指していきたいです。（中・W）

### 経験者研修Ⅲ（全体研修①）

- 教材研究、授業研究の大切さを改めて感じた。子どもの発表やつぶやきに対応できる力量を身につけていきたいとします。（小・W）
- 同年代の先生方との話し合いを通して、誰もが感じている、悩んでいることが共通であることを知りました。（小・M）
- 講義で先輩の先生から「もっと教師としてしっかりやれ」と指導されたような気持ちになりました。（中・M）
- 講義では貴重な体験談を交えての話が多く、興味深く聞くことができました。また、自分自身の教員生活の在り方を深く考えなければならないことを発見することができました。ありがとうございました。（中・M）
- 「慣れ」に甘んじることなく教材研究からまた始めたいと思いました。（中・W）